

令和 6 年 9 月 4 日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00693

研究課題名（和文）東南アジアにおける「学び合う教師コミュニティ型教師研修」の広がりと継続性の構築

研究課題名（英文）The spread in Southeast Asia of co-learning-type teacher training aimed at community formation, and the establishment of sustained continuation of said training

研究代表者

池田 広子 (Ikeda, Hiroko)

目白大学・外国語学部・教授

研究者番号：80452035

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はベトナム教師を取り巻く現状と教師研修に対する意識を分析した上で、ベトナムにおいて「実践を省察するラウンドテーブル型教師研修」を実施し、参加者である教師と運営側の学びを分析した。その結果、まず、教師らは教育機関の兼務が多く忙殺されていること、キャリア形成への葛藤が生じていること、学習者の目的が乖離していることが明らかになった。次に、研修の参加者の語りや学びについては、教育制度や授業方針の変更に対する不安が確認された。一方、運営側においては内容面と運営面からの学びが示された。先行して行われている中国における同研修では、継続的に実施することによってコミュニティが構築されていることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

（1）日本語教師教育において、新しい教師研修（実践を出発点として教師同士が学び合う研修）の可能性を国内、中国に続きベトナムにおいても示した点である。「教師の成長」に考え方に留まることなく、教師が協働で探求し、省察する研修を継続的に行うことで、「実践コミュニティ」が構築されることを示した。これは中堅研修を考える上で貴重な資料となる。（2）ベトナムの現状や教育観を調査した上で、同研修を実施し、その可能性を検証した点である。これにより日中に続く検証が示された。得られた知見をASEAN地域に応用し、教師の力量形成に繋げていく。（3）同研修の理論とその方法、実践例をまとめて図書として出版した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we analyzed the current situation faced by teachers in Vietnam, and the awareness there concerning teacher training. In Vietnam, teacher training is implemented using “roundtable” discussion, with teachers reflecting together on their practices. The analysis also focused on the learning that occurs, both for participant teachers and for the entity that performs the training. Results showed that, teachers are busy with extracurricular activities for their school. Conflicts and troubles occur as they pursue their career paths. Results confirmed that training participants have anxieties concerning what they say and learn. Meanwhile, in regards to the entities that perform the training, learning occurred regarding training contents, and in regards to managerial and administrative aspects. In the similar training conducted in China, it was found that communities are being formed as a result of its sustained implementation.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教師教育 協働省察 教師コミュニティ築 省察的实践 ラウンドテーブル型教師研修 ベトナム

## 1. 研究開始当初の背景

日本語教育は外国人の受け入れにおいて、重要な役割を担う位置にある。また、アジアを中心とする海外においては、日本語学習者が増加しており、日本語教員不足や教材不足、教員の質の向上が指摘されている。これまでの日本語教師研修は、新たな知識や理論の獲得を目指すものやワークショップ等が大半であった。

前回の科研(基盤研究 C15K02649)では、上述の理論をベースにした研究会(学びを培う教師コミュニティ研究会 <https://manabireflection.com/>)を立ち上げ、日中両国で研修を実施し、参加者教師と運営者の学びの特徴を示した。しかし、教師コミュニティを広げ、その可能性を示していくためには、日本語学習者が急増し、これとともに日本語教師も増加している東南アジア(ベトナム)でも研修を実施し、拡充・継続することが重要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究ではこれまで日中両国で実施してきた研修(実践を省察するラウンドテーブル型教師研修)をベトナムで実施し、教師コミュニティの広がりや参加者教師と運営者の継続的な学びを明らかにする。具体的には、(1)ベトナムにおける教師教育、教師研修の実態を把握した上で(2)当該教師研修を実施し、評価・改善のサイクルを繰り返す。同時に参加者教師や運営者の学びと認識の変化を縦断的に追究する。(3)得られた結果を前回の科研(日中の特徴:基盤研究 C15K02649)と照合し、相違点と共通点を特定する。その上で東南アジアにおける本研修とシステムの可能性を検討する。

## 3. 研究の方法

方法としては、ベトナムにおける日本語教師研修及び支援の実態を明らかにするために、ベトナム人日本語教師を対象に質問紙調査およびインタビューを用いた質的研究(M-GTA)によって分析する。また、ベトナムで当該研修を実施し、参加者日本語教師の学びの特徴を質的に分析し成人学習論から考察する。さらに、長期的に運営に取り組む運営者ら(コーディネーターとファシリテーター)の分析をおこなう。これらの結果と、前回の科研(日中両国の特徴:基盤研究 C15K02649)で得た知見を比較し、其々の背景と結びつけて考察する。

本研究は研究会の運営者が相互に連携を図りつつ、日中越の参加者教師の研修をおこなう。そこで得られたデータをもとに研究を進める。

## 4. 研究成果

本研究の成果を、「2. 研究の目的」の項目にあげた3つの研究課題に沿って示す。

(1)ベトナムにおけるベトナム人日本語教師を取り巻く現状と日本語教師研修に対する意識について4つの観点(①教師を取り巻く環境、②自身のキャリア形成、③学習者を取り巻く環境、④日本語教師研修)から述べる。

第一に教師を取り巻く環境については、1人の教師の兼務が多く、仕事に忙殺されていることや待遇面への不満があること、授業に対しても理想的な授業を展開することに苦慮しており、教師と学習者間において学習スタイルが異なることが窺われた。第二に、日本語教師のキャリア形成においても不安や焦燥感を抱えていることが示唆された。第三に、学習者は日本語を道具的に捉えていることが示唆された。第四に、日本語教師研修に対する意識を見ても、国内で多くの研修を受けたいという希望があるものの時間的・精神的な余裕が

ないという意識が浮かび上がってきた。

これらの現状や課題は、個人の問題にとどまらず、制度的なものとも関係していることを示唆した。また、急激に変化する教育制度やニーズに日本語教師や学習者が適応するための手立てが少ないことを示唆した。さらに、教師仲間が少ないことから対する孤立感と葛藤を抱えている点も示唆した。以上の点から個としての成長だけではなくコミュニティをつくりつつ、エンパワーメントしていくことが重要である点を指摘した。

(2) 同研修を実施し、評価・改善のサイクルを繰り返す。同時に参加者の学びと長期にわたる運営側の学びを明らかにする。また、両者の意識変容の学びや認識の変化を縦断的に追究する。

まずは、ベトナムにおける「実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修」を企画・実施し、参加者教師の語りや学びを明らかにした。参加者の語りは、大きく9つ（授業についての不安、葛藤、試行錯誤、②母語話者教師と非母語話者教師との役割分担が明確、③日本語教師のキャリア形成、④気づき、⑤大学におけるニーズ、⑥社会人のニーズ、⑦ふり返り、⑧教師を取り巻く人間関係、⑨授業目標と内容の説明）が確認された。最も多く確認されたものは、①授業について不安、葛藤を抱え試行錯誤する語りである。急展開するベトナムの教育現場の中で自身の教育観が揺れていることが窺えるものであった。また、日本語教師のキャリア形成についても、自身のキャリア形成について当該研修で語ることで意義を見出すものも確認された。

次に、運営面側の学びについて述べる。

ファシリテーターについては、2つに大別された。

ア) 運営面に関するコード

ア) については、①参加者の予期せぬ反応に柔軟に対応する力が重要であるという認識、②自身の問いかけや話の広げ方に特徴があるという気づき、③参加者の省察を深めることを視野に入れた対応に対する認識がみられた。

イ) 内容面に関するコード

イ) については、①多様化した各教育現場に通底する共感、②省察を深めるための聴き手の役割の認識、③他者の実践によって自分の実践が支えられていることの気づき、④自身の教育活動の広がりがみられた。

(3) 得られた結果を前回の科研（日中の特徴・基盤研究 C15K02649）と照合し、相違点と共通点を特定する。その上で東南アジアにおける本研修とシステムの可能性を検討する。

ベトナムにおける教師研修はコロナ禍の影響をうけて、対面1回、オンライン研修3回であった。対面1回の研修で少しの結果は得られたが、現時点で特定することは、時期早尚である。しかし、上海ラウンドテーブルでは、対面で継続的に（3年間）実施した結果、参加者の学びとコミュニティの形成について以下の結果を見出した。

M-GTA(木下2003)を援用して分析した結果、「上海の大学の日本語教師を取り巻く状況」、「ラウンドテーブル参加前の認識」、「継続的な参加から得た気づき」、「ラウンドテーブル参加後の認識」、「教え方を求める教師からの要望」、「ラウンドテーブル参加後の意欲」という大カテゴリーを生成し、これらの下位カテゴリーや概念を階層的に位置づけ、参加者の学びのプロセスや葛藤などを時間軸にして概念図で示した。また、その上で、参加者は継続して

参加することによって、①省察が進み、また役割交替で得た気づきが生成されていたこと、②参加後には研修で得た認識が意欲や行動の変化に移り、往還サイクルが出来上がっていることが示唆された。

以上の点から共通して言えることは、国によって日本語教師を取り巻く情報は大きく異なること、そして、その国の制度や制約のなかで日本語教師が教師研修で語ることに違いがみられた。一方で、キャリア形成に関する点ほどの教育現場や文脈でも語られていたため、通底する要因があると考えられる。

当該研修の可能性を3つの点から述べる。1つはベトナムの高等教育の改革と教師らの経験知のギャップを埋める場になること、2つ目は、キャリア形成の面で教師が省察する機会になること、3つ目は国や地域を移動する特性を持つ教師が自身の経験を語り共有することによって、関係性を構築する場になることである。これらの可能性については、さらに検証していく必要がある。今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 池田広子・尹松・宇津木奈美子	4. 巻 183
2. 論文標題 「実践を省察するラウンドテーブル型教師研修」からの学びと可能性：継続的に参加した上海の大学教員を対象として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 18-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 池田広子・尹松	4. 巻 19
2. 論文標題 上海における「実践を省察するラウンドテーブル型教師研修」の実践と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日語教育与日本学	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 池田広子・宇津木奈美子・守内映子	4. 巻 27
2. 論文標題 ベトナムにおける「実践を省察するラウンドテーブル型教師研修」の可能性と日本語教師の学び 参加者の語りから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 目白大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池田広子・酒井彩	4. 巻 第28号
2. 論文標題 ベトナムにおけるベトナム人日本語教師の現状と教師研修に関する意識調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州大学留学生センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 池田広子
2. 発表標題 実践を省察するラウンドテーブル型教師研修におけるファシリテーターの学び グループ運営面に着目して
3. 学会等名 2022年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田広子
2. 発表標題 日本語教師教育の現状と今後、求められること 省察と実践コミュニティの可能性
3. 学会等名 JCLI日本語学校主催（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田広子
2. 発表標題 実践のプロセスを協働でふり返る教師コミュニティ
3. 学会等名 言語文化教育研究国際研究集会 ベトナム（言語文化研究学会・ハノイ日本語教育研究会・タンロン大学共催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田広子 酒井彩
2. 発表標題 日本語教師が教師研修に求めるものは何か 大学日本語教育センターと日本語学校の日本語教師の比較から -
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究会 Venezia ICJLE2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計2件

1. 著者名 池田広子・宇津木奈美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 138
3. 書名 越境する日本語教師と教師研修：実践を省察するラウンドテーブル	

1. 著者名 北出慶子・嶋津百代・三代純平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 208
3. 書名 ナラティブでひらく言語教育 理論と実践	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<p>学びを培う教師コミュニティ研究会  <a href="https://manabireflection.com/">https://manabireflection.com/</a></p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宇津木 奈美子  (Utsuki Namiko)  (90625287)	帝京大学・日本語教育センター・准教授   (32643)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

## 〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 学びを培う教師コミュニティ研究会・ベトナム日本語教育研究会共催「ベトナム ラウンド テーブル2021秋-実践のプロセスを協働で振り返る-語る・聴くから省察へ」日本語教師 研修の実施	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 学びを培う教師コミュニティ研究会・華東師範大学共催「上海 ラウンドテーブル2021冬- 実践のプロセスを協働で振り返る-語る・聴くから省察へ」日本語教師研修の実施	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 教師研修の実施：学びを培う教師コミュニティ研究会と華東師範大学の共催「ラウンド テーブル2019上海冬 実践のプロセスを協働で振り返る-語る・聴くから省察へ-」を企 画・実施	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 教師研修の実施：学びを培う教師コミュニティ研究会とハノイ日本語教育研究会の共催 「ラウンドテーブル2019ハノイ春 実践のプロセスを協働で振り返る-語る・聴くから省察 へ」を企画・実施	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 教師研修の実施：学びを培う教師コミュニティ研究会と華東師範大学の共催「ラウンド テーブル2018上海冬 実践のプロセスを協働で振り返る-語る・聴くから省察へ-」を企 画・実施	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	華東師範大学			
ベトナム	ハイフォン大学	国立ホーチミン市人文社会科学 大学	名古屋大学日本法教育研究セン ター ベトナム	他1機関